

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
1	洞峰公園のパークPFI事業について、皆さんとも共有したいと、或いは市長ともお話ししたいと思っています。この洞峰公園、本当に自然豊かで静かな緑のある市民、県民の憩いの場になっているかと思えます。私自身本当になじみのある公園です。茨城県の方でPFI事業、民間を導入して、そこでグランピングやドッグラン、24時間営業のジムのようなものを取り入れて、収益を上げて、その収益を維持管理に使っていくと、そのような取り組みで今進んでるわけですが、この点について市民県民として問題意識を持っています。これはご存知のように今年の4月からすでに始まってしまっていますが、私も含めて多くの、地元の者でも全く知らなかったんですが、あることを機会にして洞峰公園の事業があるってことを知って、国土交通省がイニシアチブを持って行っている事業を茨城の方も手を挙げて行うということですから、多くの木を伐採するとか、静かな環境を損なうのではないかと、そういう心配があるものですから、そのような声を県の方も考慮したんだと思いますけれども、7月に4回にわたって説明会を行いました。国際会議場とか谷田部の総合体育館、洞峰公園の体育館等で合計4回、私も4回の説明会に参加しました。そこでこの事業を初めて聞いたわけですが、いろいろな点で疑問点等も生じました。茨城県の方でも「第二次茨城県総合計画」新しい茨城への挑戦ということで、ここで「活力があり県民が日本一幸せな県」ということで、地域づくりの基本方向は、地域の自主的な声、地域住民の主体的な考えを尊重する地域づくりということをやっています。先ほども市長の方も、「ともに創る」ということを大事にすると。まさに住民とともにつくっていくと、この茨城県を良くしていく、そのようなことが基本にあるかと思うんですが、先ほど申し上げたように、全く地元等の身近な住民でさえ知らないPFI事業というのがいきなり出てきて、グランピングを作って、多くの人を呼び込んで、そこで18棟の宿泊施設を設けて、なおかつビール工房まで作って、飲酒も可能なキャンプ場、それから駐車場を拡張するために一説によると300本、或いはもっと多くの木を切るのではないかと、非常に閑静な静かな自然豊かな木、環境を損なうのではないかと大きな心配をたくさんの方がしているかと思えます。先ほど、SDGsを率先してつくば市は大事にしていこうということですが、17項目のうちの15番目、これは緑の豊かさを守ろうというものです。地球規模で、人類としても大事な自然、伐採をして、人ごみを作って、本当に静かさや緑が私は洞峰公園の魅力だと思っています。それなのにそれに逆行するようなもの、自然を壊し、人を多く呼び込み、そこで収益を上げる、お	この問題については、今おっしゃったことがその通りだと思っていて、私もかなりの洞峰公園のヘビーユーザーでして毎日通って来てますが、端的に言えばもう公園としては完成している公園だと思っています。すばらしい自然の環境があって、そこでそれぞれの人がそれぞれの楽しみ方をしているということを考えれば、いろいろ市立の公園もありますけれども、市内の公園の中でも最も魅力的な公園は洞峰公園なんじゃないかと思っています。しかも今、週末になると特に西大通り側の駐車場で、やっぱり時々入るのにつっかえたりしていますので、それぐらい人気があるわけですね。私の考えを申し上げれば、そういう状況の中で、当初県が説明していたように、なぜわざわざ県外からより魅力を高めて、或いは東京から、人をそこに連れてくるなどということをしなくてはいけないのかというのは、私には理解ができません。 実はこれまでのプロセスをお伝えすると、これ議会で全部お答えしていることですが、今回県がこのような事業を計画する前から、つくば市としては、あそこに宿泊施設はつくれないというようなことは伝えてきています。さらに、今回県はプロポーザルという形で事業者を募集して企業を決めたんですが、その選定会議にも、つくば市オブザーバーとして参加してるんですね。その際にも、ここにはそもそも宿泊施設はつくれないと、さらに洞峰公園の今の魅力を考えて、果たしてこのようなものが適切なのかというようなことについて、かなり懸念を、建設部長が出席をして述べているんですね。にもかかわらず、その企業が選ばれ、さらにその2ヶ月後ぐらいにこういう事業をやりたいと思いますと、県から市に来たので、いやいろいろお話してきましたよねと。質問状をたくさん出させていただきました。環境をどういうふうに考えてるんだとか、説明会をまずやって欲しいということで、それで回答をもらって、実は3月にオープンハウスという形で説明会をやったんですね。それは、いわゆる7月の説明会とは別の形で、パネルとかを展示して一対一とかで話して、そこでもかなりの反対の意見が多かったですけれども、それでも当然不十分ですので、ちゃんとした説明会を開催してもらって、もう皆さんご存知の通りの結果でして、私も会場の議事録すべて読みましたけれども、9割以上が反対をしているような状況として様々な懸念をしている状況があると。そして、オンラインでのアンケートもこれもつくば市からお願いしてやってもらったんですが、説明会とオンラインのアンケート終わったらそれを踏まえて方向性を協議しましょうねということが、つくば市と県の約束事だったわけですが、そのアンケートが8月いっぱい終わったら、そのアンケートについて県としては、年齢層には偏りがあると。40代以上が7割近い、それを偏りと呼ぶのかどうか

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
金のため収益のために自然を壊すのかと、今このSDGsの中、自然を大事に守っていくという多くの市民の思い、それに逆行することを今行おうとしているのではないかという懸念を多くの方が抱いていると思います。説明会が7月に行われましたが、8月いっぱいまで県がアンケート取りました。集計をいまだにやってるということで、県庁に問い合わせても、まだ結果が出ていません。それなのに、新たにまたアンケートのやり直しではありませんけど、さらに拡大したアンケートをやるという動きも聞いてます。説明会をよくよく聞いても洞峰公園になじみのある多くの方々がアンケートを出して答えているのに、さらに広げる意図は何なのかということも、非常に懸念もしています。 以上そのような問題意識を持っておりまして、質問ですが、そもそもこの洞峰公園の魅力というものを、市長としてもどのようにお考えになっただけですか。私は自然が静かさ、緑、それが洞峰公園の魅力だと思います。それを壊すような動きということについては本当に心配しています。このことをどのようにお考えなのかということと、説明会でもいろいろ質問やりとりがありまして、県の方でもホームページですぐその質問に対する回答が出ておりますが、そうした中にも質問として、洞峰公園は都市の中にある公園で都市公園で、その中にグランピング宿泊場を作るということは都市公園の施行令の中でも、非常に留意すべき点だということが挙げられているかと思います。また建築基準法は、グランピング施設については、つくば市の許可、承認が求められるということで、県の方の建築確認に関して、事前協議はどうだったのかという質問に対してこう答えてますね。「建築基準法の特例許可の判断はつくば市となります。」ということで、現在進行形で、市の承認を取る過程であるかと理解しています。このようなことについてつくば市としてどのようにお考えでしょうか。	知りませんけれども、そして9割がつくば市民だと、当たり前だと思いますけれどもね。そういうことで偏りがあるということでしたので、もう1回やると。ネットのモニター会社を使って茨城県全域でやるということで、これも本来情報共有してもらはずだったんですが、残念ながらまだ情報共有してもらえてません。さらにその8月のアンケートも、生データをもちろんつくば市に渡しますと言われているんですが、まだ分析が終わってないということで、我々繰り返し要求してるんですが、その生データももらえていません。ので、残念ながらまだ協議には入っていない状況ではあります。ただ、説明会の状況を踏まえれば、県が誠意ある態度を示してくれれば、やっぱり同じような計画出せるんじゃないかなと思うんですね。説明会でも、値上げをしても構わないという方もたくさんいらっしゃいました。アンケートでもそのこと聞かれていますので、仮に、値上げをいいよという方がたくさんいらっしゃると、かつグランピングとかバーベキュー反対だよという方がたくさんいらっしゃるであれば、県は論理的な帰結でいけばその判断をする方が正しいと思うんですね。ただ、まだわかりません。それは私も生データ見ていませんので、ただ一ついえるのは、生データの改ざんというのは県は絶対やらないと、それやれば犯罪になりますので、そういうことはしないと私は信頼をしていますが、ただその追加のアンケートの実態とかも、まだ聞かされていけませんので、ちょっとどういうふうになるのかなってのはわかりませんが、今の状況としてはそういうことです。今後、追加のアンケートとか分析1ヶ月かかると言われましたので、週明けにはまた市役所から茨城県に対して、どうなりましたかと、協議しましょうという話を、すぐ連絡を入れる予定です。その上できちんと話し合いをしたいとは思ってるんですね。ちゃんとデータを踏まえて、地域の方が何を望んでるか、かつ、じゃあその改修が様々な必要なのであれば、その予算をじゃどうしましょうかというような協議をしていくということが必要だと思うんですが、本当は1ヶ月前にその協議に入りたかったんですけども、まだ入っていないというのが現状ですが、県の担当者も一生懸命悩みながらやってくれてると思っていますので、私としても引き続き話をしながら、データをきちんと共有してもらって、みんなの洞峰公園ですから、みんなにとっていい形で守れたねとなるように努力をしていきたいと思っています。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
2	①グランピングの施設の建築確認、建築許可特例許可の扱いについては、今どのような状況になってますでしょうか。 ②わかりましたありがとうございます。住民とともにつくる地域づくりということを県が言っている以上、そのことを期待していきたいと思います。申請を取り下げる、申請を見合わせるということを期待したいと思いますが、万が一申請されるようなときには、つくば市民それから茨城県民としてみんなで声を上げていきたいと思っております。アンケートについては、8月いっぱい締め切ったアンケートの結果をまずしっかり公表していただくことを県に求めたいと思います。そのあとに追加して、水増しをするような形で進めるような内容というものはもう明らかに意図的ですので、今あるアンケートの結果が県にとって非常に好ましくないという結果が出てるんだと思わざるをえない、多くの方がそうに思っています。そうでなければ追加のアンケートもする意味は考えられませんので、まずは8月いっぱい締め切ったアンケートをしっかり公表していただくこと、このことがとても大事だと思っております。	①基本的には宿泊施設は建てられないというルールになっていますので、手続き上は、その特例許可を求める申請を茨城県が出してこないところとしては審議に入れません。ただ、それは48条の特例許可というのが建築基準法にあるんですけれども、それは建築審査会で議論をされることになります。ただ、繰り返しますが、以前からそもそも宿泊施設駄目だということもお伝えしてきていますし、もしアンケート等の結果でそれをみんなが望んでないとなれば、そういったものを県も本来は申請してこないというか、そういう計画から大幅に変えるというのがあるべき行政の形なんではないかなということは私としては思っていますので、今のところはそもそも申請されたらどうしますかということには答えようがないというか、申請まだしてきてませんし、という状況ではあります。これは本来協議が整って、申請というのは実際もう最終段階のようなものでして、申請するイコールほぼ許可前提というようなものになるんですが、まだとてもその素地ができていませんので、まだ申請の話は県から来ておりません。 ②アンケートも当然ごったにみたいなことは、県はしないと思います。あくまでも8月に行ったアンケートはそれとして集計をして、追加で行ったアンケートは追加として集計をするというのが最低限のことだと思いますので、それを合わせたような数字も出すかもしれませんが、基本的にはきちんと別で見るということが常識だと思いますので。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
3	先日、市の支援施設の一時預かりを申し込みと思ったんですが、私の息子が発育に必要な服薬が必要ということで、申し込みに行ったら、うちは看護師がいらないから診断書が必要なんですということを言われました。薬が必要だから診断書をもってこないダメなんです、看護師がいらないからと、帰されました。何かしら疾患があるから診断書が必要という理屈もわかるんですが、支援員の方とはとにかく「看護師がいらないからダメなんです」とおっしゃってたので、じゃあ看護師さんが設置されれば、一時預かりももう少し規制が緩和されるのかなあと疑問を感じました。昨年、医療的ケア児支援法が制定されているというふうに自分も勉強してきたんですが、幼稚園や保育所といったところでの看護師の配置だけじゃなくて、一時預かりでこそ看護師さんがいれば、それこそ安心して子育てができる、私のような相談であったり、何かしらハンデやいろんなものを抱えている子供をもつ親御さんこそそういったところを利用できた方がより一層あんしんして子育てできるまちになるかなと思ったので、提案させていただきたく今日は持ち込みました。 診断書が必要だというのは、本当に命にかかわることがあると思うので、診断書なんで出さなきゃいけないんだということではなく、そこまでの病気ではないのに受け入れてもらえないというのは、診断書がないと、お金を払わないと、受け入れてもらえないという事実があるということを知っていただければと思いました。	出産で大変な思いをされて、でも無事産むことができて、でもそしたら今度子育ての場面でそういう辛い思いをされるという、本当にお辛いと思いますし、今お話聞いていて申し訳ないなという気持ちになりました。その一時預かりは、市のけやき広場のことですか、それとも保育所とかにある一時預かりですか。(発言者:けやき広場のほうを利用しました。)わかりました。けやき広場もいろいろ改善が必要だということは実は思っていて、いろんな議論をしてるんですが、今いただいたことは非常に重要なことですので、あそこは指定管理者という形をお願いをしているんですけども、ちょっとまた管理者とよく話をして、体制の要件の中に、本来出すときにそのような情報を入れておかなきゃいけなかったんだと思うんですけども、ちょっと急いで話し合いをして、今後どのようなことができるかということについては考えていきたいと思っています。それから、医療的ケア児についても、つくば市では今まで体制なかったんですけども、今実は医療的ケア児を受け入れられるような公立保育所の準備をしているところです。今でも環境を整えられないこともないんですが、今耐震基準を満たしていない公立保育所がたくさんあるので、今度そこを公立だったり民間でやっていくんですが、そこでできていく財源を使って、医療的ケア児をきちんと受け入れられる設備投資もしていったら、おそらく2年後からきちんと受け入れができると思っていますが、そういう体制も作っていききたいと思っています。子育てをしている中でもご苦労が様々あると思いますし、やはりそれだけ安全な環境でないとなかなか子を預けることができないということがあると思いますので、できるだけ医療的ケア児については体制整えていきたいと思っていますので、看護師いないというのは、だったら看護師つけろよという話だと思いますので、できるだけ改善できるように努力をしていきたいと思っています。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
4	①スーパーサイエンスシティ構想について資料を拝見して、ぜひ早期に実現していただきたいなと思いました。ただ、その中で、デジタルインフラのスマホですとかパソコンとか、その整備が非常に重要になってくるだろうと思っております。私が住んでる荃崎地区は、特に私の団地は65歳以上の高齢者の割合が45%超えていますので、スマホとかパソコンに積み残されちゃうんじゃないかなという心配をしております。構想の資料の中に、実現に向けた取り組みで、高齢者向けスマホタブレットを配布との記載があるんですけども、この具体的な何か展開方法とか、或いは教育についても何か案がもう決まってるんでしたらご紹介いただきたいんですけども。	①この部分は、スーパーシティを進める上でも非常に大事な部分だと思っているんですね。誰1人取り残さないと言いながら、スマホ使えないと取り残されるというんじゃお話になりませんので、行政としては何としてもそういうことをしないようにという思いでやっています。そのために、モデル地区を2ヶ所選ばせていただきました。筑波地区の小田地区と、それから荃崎地区の宝陽台で、モデル地区として指定させていただいて、まずスマホ教室をこの小田地区と宝陽台地区で行ったんですね。そこで、本当に何度も繰り返しやりながら、ああだこうだということを結構皆さんにやっていただいて、これならできるかもねとか、1回じゃ覚えられないなと、そういうようなことをお話をいただいて、今この2地区を対象に、どれぐらいの割合でスマートフォンをお持ちかということや、どういう機械であれば皆さんが使いやすいかということ、そして貸出しということもこれからしていきたいと思っています。持っていない方には、行政としてスマートフォンを貸し出しをしていくと。さらに、スマホの支援員、デジタル民生員とかいろんな言い方しますが、この支援員も最初は筑波大学の学生等を中心に支援をしてもらって、世代間の交流とかもしてもらいつつ、最近は例えば宝陽台でも、スマホ教室とかでできるようになった方がまた次の方を教えていくなんていうような流れもできてきたりしていますので、そういう今、ある意味でデジタルの格差を地区の中でどうなくしていけるかというのを、モデル事業的に行っているんですね。ですのでここで様々な取り組みを行ってみて、こういう取り組みをすれば地域内で本当に格差なくみんながデジタルにアクセスできるようになると、そしていろんなサービスを受けられるようになるということを作っていければ、どんどんと横展開をして。支援員になっていただく方をどんどん増やしていくとか、そういうような取り組みを行っていきたいと思っていますし、あわせて、なかなかご自宅にWi-Fiがない方などもいらっしゃると思いますので、来年度予算で各地区の自治会館のWi-Fiの設置の補助金なども作りたいと思っています。ご自宅になくても、そこに来ればWi-Fiが繋がるとなれば、また地域でのスマホ教室とかもやりやすくなったりすると思いますし、通信料とか気にせずに皆さんに使っていただくこともできるんじゃないかなと思っていますので、そういう取り組みを通じて、先ほどお話したスーパーシティの構想をみんなが享受できるようにしたいと思っていますので、大変申し訳ないですがまずモデル地区からのスタートとなっていて、ただそこで出た知見をできるだけ早く横に展開できるように頑張っていきたいと思っています。
	②いわゆるデジタルサポーターというのは非常に良いアイデアかなと	②そうですね。悩ましいところで、使えないと駄目っていうとちょっと置いて

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	思っ、ぜひ市全体としても展開していただければいいんじゃないかなと。実は私、昨年度、つくば市のアイラブつくばまちづくりの補助事業で、スマホの講習会をやろうかと思ったんですけども、いろんなレベルの方がいらっしゃいますんで、まずそういう方々に、これからはスマホ使えないと駄目よというのを御理解いただかないと、ちょっとハードルが高いのかなというのが感じてるところなんですけれども。ぜひ積み残しされないようによろしく願いいたします。	きぼり感が出ちゃったりもするので、使うと便利になりますよということを、やはり粘り強くお話をしていきたいと思っていますし、先日もスマホの所有に否定的だった方がスマホを使ったりしましたので、多分、お孫さんと話ができるとか、いろんな理由で今までは絶対使わないとかそんなもの要らないっていう方も使っていくようになるんじゃないかなと思いますので、そこはしっかり粘り強くやりたいと思います。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
5	情報弱者というか、デジタル弱者というか、高齢者はスマホ使えないとかっていうことが起こってるんです。弱者をどう救っていくか。これはものすごく話が大きくなります。例えば高齢化に伴って、高齢者が高齢者の介護をするときに、介護される方もする方も今のシステムではものすごく大変な、まあ介護保険がありますが、今のところ実態として、弱者が弱者を助けるみたいな話になる。もっと酷い話は、ヤングケアラーっていうのは、親の面倒を、10代とか中学生とかっていう子供が見てるというケースが、実際問題としてどんどん増えてきてるわけです。そういう弱者というものをスーパーサイエンスでどう救っていくのか、或いは救えたのかっていうのをどうやって評価するかというあたりを、組織的にチェックリストというか、そういうものを作るべきではないかと思います。 先ほどの市長のお話、僕も不勉強でよくわかんないところがあったんですが、SDGsもこれがうまくいってるかっていうところに、我々の中の弱者をどう救ってきたかっていうのが入ってないと、まちは存続しました、しかし住んでる人がいませんという話になるとしょうがないんですね、デジタルもそうですし、老々介護もそうですし、ヤングケアラーもそうですし、そういう観点が今日のお話では全然出てこなかったんですね。つまり、事業のアセスメントをどなたがやるのか、どんなふうにしてアセスメントして、目的に近づくか。SDGsの場合は、持続可能な社会という話を出してるんですけどその構成員についてはほとんど触れてないんですよ。そういう弱者をどう救うか。一番端的なのは、横断歩道を渡る高齢者のスピードで青信号の時間を調整するという話はやったことがあったんですね、スクランブルみたいに幅広い道路のところの横断歩道を渡るときに、高齢者の歩数で行って何人が渡れるか。例えばそういうものを含めて、できればSDGsの評価部門というか。 もう一つは、世界を上げて電気自動車を走らせる、これは結構な話ですが、じゃあ電気自動車の電気はどこでつくるんですか。それが、原子力発電所であれ化石燃料はそれであれ、原子力の発電所だったら出ないかもしれない二酸化炭素を出す、化石燃料を使った発電所からの電気ですら自動車が走るのであれば、その自動車を入れることによって、途中の効率その他を考えて、本当に二酸化炭素が減るのか。そういうアセスメントが、ライフサイクルアセスメントっていう学問というか技術というかで、筑波大がかなり中心的な役割を担った時代があるんですけども、今は脱炭素の話とか、ターゲットがはっきりしない人間をさておいては、効果だけを狙っているような技術なんですけど、	アセスメントは非常に行政においても重要なものでして、何かやってやりっ放しみたいなことが非常に政治の世界って多いんですけれども、そうならないようにすることが非常に重要だと思っています。先ほど、例えば老々介護の部分であったりヤングケアラーというのは、老々介護の方は、つくば市内で大体16%ぐらいの世帯が老老介護になっているとかデータはあって、そこをどうケアしていくかなんていう施策は打っているんですが、例えばヤングケアラーのように、最近問題として取り上げられてきて、もちろん以前からあったわけですが、そういうものについてはまず、実際どれぐらいの子供がそういう状況にあるかの基礎データがないといけなくて、そのヤングケアラーの実態調査を今進めているところです。その実態調査に基づいて、ヤングケアラーも家庭の状況が全部違いますので、どういう個別支援をしていけるかということをやっていく、そのためにはスクールソーシャルワーカーであったり、或いはスクールカウンセラー、これも全然人数足りてないので、今予算をかなり大幅に増やして対応していく準備をして、来年度もさらに増やすんですが、そういう個別の取り組みを丁寧にしていかなくてはいけないと思っています。 それから、スーパーシティ全体のアセスメントについても、すごく視点としては同じようなところがありまして、まずきちんとデータを取るということで、その先本当にそのことによって、だれが幸せになったのかということがわからないと、自己満足になってしまうと思うんですね。今ひとつ指標としてつくば市で進めているのは、スマートシティインスティテュートという、これ民間の団体ではあるんですけれども、政府もその指標を使おうとしていましてどんな指標かというと、これも横文字で恐縮ですけども、ウェルビーイング指標というような指標を取り入れて、それをスマートシティを進めているまちがみんな使えないかというようなことをしているんですね。それは、やっぱりつくば市が市民意識調査でとってるような、今の幸福度とかそういうものを入れていたり、或いは具体的な政策的な、例えば要介護度の人の割合とか、そんないろんな形のものを組み合わせしていくわけですけども、そういう指標をスーパーシティの評価にも使うことによって、つくば市の自己採点ではなくて、横串を通せるような評価の枠組みというのが1点ですね。 それからSDGsに関しても、実は横並びの評価の仕組みというのがなかったんですね。ですので、それは今、日本工営という開発コンサルタントがありますが、日本工営というところとつくば市で協力をして、このSDGsにどのように行政として取り組んでいるかという評価を入れる仕組みを、ちょうど先月ぐらいにいろいろ細かいところは詰まったんですが、それを他の自治体の皆さんにも使ってもらって、これもやっぱり自分たちの自治体だけででき

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要（※特記のないものは、市長による発言内容です）
	スーパーサイエンスシティとしては、そういう評価部分というのをもう少し整理するなり、調査するなりするのが一番いいんだろうと思うんですけど、調査して解析するという。今考えてるスーパーサイエンスシティの場合のアセスメントをどうするかということについて、お話しいただければありがたいと思います。	たできなかったってやるんじゃないくて、SDGsというのも世界標準ですので、そういう世界標準のものから見てつくば市が今どういうことができていて、どういうことはできてないのかというのをきちっと評価をして、その評価をした上で、じゃあ足りない施策はこういうことやらなくちゃねというようなことに生かしていきたいというふうに思っております、そのようなアセスメントをしながら取り組んでいきたいと思っておりますが、まだまだ本当におっしゃるように試行錯誤というか、行政として遅れてる分野だと思っておりますので、頑張って取り組みたいと思います。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
6	①高校でSDGsに関する取り組みをしているのですが、その中で、他校との関わりだったり、企業さんとの関わりを持ちたいなと思いまして、SDGsパートナーズの中でどのくらいコラボが行われているのかというのと、学生さんの中でもそういうSDGsとか環境問題に取り組みたいけど取り組む機会がないみたいな話をよく聞くので、つくばSDGsパートナーズの中でどれくらい学生さんが参加されてるのかなっていうのを伺いたいと思いました。 学校の中では、SDGsかるたをイベントで主催したり、ごみ拾い活動を定期的に行ったり、リサイクル活動を学校内で行ったりしているのですが、学校の外との関わりがあまりないので、そこをもうちょっと増やせたらと思って。 ②つくばSDGsパートナーズっていうものの、、たぶんいっぱいいると思うんですけど中学生なり高校生なり、SDGsにもっと取り組みたいという方々が、もっと認知度を上げるというか、そういう運動というのは。 ③今オンラインだと出向かなくて済むっていう便利さもあるので、オンラインだとやりやすかったりするのかなっているのもありますし、あとSDGs	①こうやってSDGsに興味持ってくれて、さらに活動までしてくれているのはすごくありがたいですね。まさにSDGsパートナーズという集まりがあって、個人でもそして団体でもはいるんですけれども、今個人でも400名以上いると思いますし、団体は148団体あり、SDGsパートナーズの交流会みたいなのもやるんですね。今年もコロナだったからオンラインでやったんですが、茗溪の人とか、コカ・コーラの人とか、いろんな人たちが会って、そこで盛り上がり、今度一緒にこんなことやりましょうみたいな話生まれていくぐらい、結構同じ志を持った皆さんなのでつながりやすいですね。具体的には、例えば、本当にたまたま私プライベートでイオンモールに行った時、イオンさんパートナーズなんですけど、そこに各団体が集まっていろんなイベントをやっていて、すごく熱心に皆さんが活動していたりとか、あとは、これもパートナーズの筑波大学の体育系の団体とソフトバンクさんが交流をきっかけにして、部活動の応援をする事業とか立ち上げてくれて、一部の学校でやってくれるきっかけができたり、それから、ダイードリンコさんとホテル日航さんでコラボしたりとか、意外といろんな活動生まれて、これからも交流会とか発表会みたいな機会をたくさん作っていて、このこと絡んだら面白そうだなというところがあったらぜひ積極的に働きかけてもらえると、また次の展開が生まれたりすると思いますので、ぜひそういう場に、ようやくリアルに取り組みができるようになってきましたので、これからどんどんそういう機会が増えていくと思いますので、ご参加いただければと思います。 ②個人会員400人ちょっといるんですけれども、学生さんは33人だそうです。登録時点の年齢なんで今ちょっと変わってるかもしれないですが、19歳以下は23人ということで、多いとみるか少ないとみるか悩ましいですけれども、確かにもっといてくれてもいいですね。ので、もっと学生さん集まれ見たいな打ち出し方をしてみてもいいような気が、今の話を聞いていて思ったので、週明けSDGsパートナーズ担当している持続可能都市推進室というところがありますので、どうやってもっと学生さんたちにアクセスしていくかという相談をして、学校でチラシを配るのがいいのか、チラシじゃないティクトックなのかわかりませんが、いろんなアプローチ考えてみたいと思います。どんなアイディアがいいですか。 ③オンライン推しでね、皆さんの世代は当たり前ですからね。ありがとうございますいろいろ。いかしていきたいと思います。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	パートナーズってつくば市内の学校に行ってる方でも入れるって話なので、市外の方でも入れるのかなっていう感じなので、そうなるとオンラインのほうが便利なのかなっていうのはあります。	

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
7	PTAの任意化とか、学校で進めまして、ガイドラインに則って、物品寄贈がちゃんとできるようになってきたり、その他ボランティアの活動で、学校に協力できるようになってきています。ただどうしてもやっぱり保護者とか、その地域の方だけの支援では、難しい部分とか、そういったところを、ぜひとも行政の方でつくば市の方にサポートしていただければというのが今日のお話です。今日お話されたコミュニティスクールとかそういったところにもちょっと関連してくるかなと思います。 交通安全関係、特に最近話題になっていますが、こちらは保護者に加えて小野川地区、テレビで取り上げられてましたけど、小野川地区のように、松代でも町会ボランティアとかそういった方に見守り立っていただけるようになってきました。危険なところとかはつくば市にもすぐ動いていただいて、ミラーの設置とか、そういったところでいつもご協力いただいてここで感謝申し上げたいと思います。ただ、やっぱり学校によって老朽化とか、維持管理というところが教職員とか保護者の大きな負担になっています。特に維持管理では樹木ですね、学校の中の樹木や生け垣の手入れ、あと雑草対策、大きな課題になってます。 他県では、校長先生みずからそういう樹木の手入れをしている作業中に亡くなってしまったなんていう、残念なケースも出てきています。私たちの学校でも、今年は年に3回、保護者、教職員、あと児童にも声かけして、大規模な除草作業とか、あと日々の落ち葉拾いなんかもボランティアの方に協力を募っているんですね。こういった親子参加したり、先生たちと一緒に作業することで、一定の親睦の機会にはなってるんですけど、特にやっぱり夏場はすごく敷地も広くて、本当にちょっと緑がもう溢れ過ぎちゃって、なかなか今のやり方ではもう厳しくなると。特に先生方の負担が大きくて、普段の業務でも、夏なんかは、そういった除草とか樹木の手入れにかなりこの時間を使っているということで、我々保護者としては、先生方にぜひ教育の充実の方にやっぱり集中していただきたいというふうに思っていますので、こういったところ、学校とか、あと今年ですと、先日も教育施設課の方に行って、やっぱりいろいろお話聞くと、各校に配分される公費予算がなかなか足りてないと不十分というか、もう少しあったらなというところがありましたので、その辺を考えていただきたいというところですね。 あともう1個、学習支援っていう考え方でいうとつくば市は、全国的にもすごく、地域の人とか保護者、非常にいろいろな分野ですぐれた人材に恵まれた地域だと思っています。今のところ、イベントとか部活、こういったところへの支援の動きっていうのは目にするんですけど、定	本当に、日々学校地域のためにご活動いただいて、大変心強く思います。「ともにつくる」ということを申し上げましたが、本当に地域で自分たちも汗をかくよという方たちがいらっしゃって初めて、いろんなことができると思ってますので、ぜひお願いしたいと思いますし、そういう中で、実は樹木についてはですね、私もかなり口を酸っぱく言っているんですけど、申し訳ないけど、校長先生の人件費は草刈のために払ってるんじゃないんじゃないのっていう話をして、まあ県が払ってるんですけど、先生方はやっぱり子供と関わることにできるだけ時間を使っていたきたいですし、授業の準備等にも当ててもらいたいので、もうとにかく、例えば無理な高木なんていうのは先生の仕事じゃないですから、本当にちゃんと教育委員会に話をしてもらって、業者を手配するというのをもう何年も前から話をしているんですが、どうしてもこれはまだまだ、今までの教育委員会と学校の関係も、私就任する前の関係ですけど、そんな教育委員会にお願いできませんという中で、私も学校で聞くと、まだまだ壁が高いんですねというのをやっぱりおっしゃるので、その辺、もっと距離を近づけていく、今随分変わってきましたけれども、努力をしなくてはいけないなと思っていますし、予算もしっかりと、PTAとかみんなでやる作業自体にも一定の価値は私もあると思ってますので、私も先日もやってきましたけれども、ただ、やっぱり本来業者が入るようなところというのは、きちんと予算をつけて、業者の方にやってもらうという必要があるとは思っていますので、ちょっと改めて、今ちょうど予算編成の時期ですので、なかなかその教育局というところに予算をちゃんとつけていくということをしなくちゃいけないので、要求が上がってきなくてもこっちから話をしたいと思っていますが、先生の負担を減らすという意味では、先ほどちょっと申し上げましたけども、今スクールソーシャルワーカーとか、スクールカウンセラーというのは、かなり増やし始めているところです。まだまだ足りてると思っていませんが、これはもう長期的には各学校に1人配置をして、子供たち、或いは親御さんの対応は先生では無理ですから、専門家が専門的な知見を持って対応していくようなことにつなげたいと思っています。ただまだその状況には至ってないので、順次、人も確保しなきゃいけないので、ということであるとか、あと、今年の予算で1億円ぐらい使って、学校の様々な作業をしてもらう人を採用しました。予算としては107人分とってるんですけど、学校少なくとも2人から4人ぐらいですね。例えば子供の絵を紙に貼り付けて壁に張るなんていう作業だけでも、軽く1時間かかっちゃった、そういう仕事であるとか、簡単な丸付けであるとか、コピーであるとか、そういう何でもやってもらえる学校サポーターというのを、予算を用意をして、今もう活躍それぞれしてもらってんですが、これ

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	常的な学習費、そういったところへの支援っていうのも、もっと保護者とか地域の方が参加しやすい仕組み、本当の開かれた学校っていうか、そういった方向にコミュニティスクールがなってくれるといいなというふうに思っています。基礎学習っていうかそういう補完的な部分もあれば、レベルの高い子、いろいろなニーズがあると思いますんで、そういう事業補助なり、何らかの学習支援を保護者とか地域も入って、経済的な負担が大きくなってしまうと、やっぱり教育格差とか広がってくるので、そういう経済的なところもなく負担を増やさない、強いる形でないような、開かれた学校とか、そういうコミュニティスクールでの支援みたいなものを、ぜひつくば市の方からも働きかけてもらいたいなというふうに思っています。	もちよつと話聞いてみると、結構学校によって使い方が上手なところと下手なところがあってですね。何か本来、先生の手間を減らすためにつけてる人なんですけれども、そうになってないところもあったりしてるようですが、何とかそういう人たちも足りなければもっと増やしていきたいなと思っています。そういうことを通じて、やはり先生の仕事はね草刈でもなければ、高木剪定でもなければ、壁に掲示物貼ることでもないですから、まずその本来の子供たちとの時間のために充てられるように、より手厚い支援を来年度も予算をきちんとつけていきたいと思いますが、あわせて、やっぱり保護者の皆さんにもそういうふうにお力をいただけるようにしたいですし、今「青い羽根の学習会」というものを各地区でやっていまして、これはもう無料の学習塾なんですけれども、地域のなかなか学ぶ機会が得られない子たちに対して地域の皆さんがボランティアで、学生さんからもう退職された研究者の方まで様々な人たちがいらっしゃいますので、もしよろしければこども未来課というところで所管していますので、そこでお申し込みいただくと、地域の子供たち、これも本当は各小学校区に一つずつにしたいんですが、まだそこまではいってないんですけれども、いろんな団体の皆さんが、地区で頑張っていくとなっていますので、ぜひそういったものにもご参加いただければ大変ありがたいと思います。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
8	洞峰公園の問題で、環境のよさとか今回の長大の計画そのもののずさんさとかちょっと置いておいて、市長にお願いしたいのは、ちょっと釈迦に説法かもしれませんが、茨城県の皆さん、洞峰公園の説明会7月の時に一応私も初めて知ってそんなことがあるのかということで、参加させていただきました。はっきり言うと、それは国家公務員でも、地方の公務員、県でも市でも同じかもしれませんが、何のために公務員の仕事をしてるのかっていう意味で、本当にその誠実さというのを感じなかったと思いました。それは、私実はあの場でもちょっとお話したんですけども、今回問題の本質は何かという論点整理なんですけども、彼らのアプローチというのはあくまでパークPFIの話のスキームの説明であつたりとか個別計画の中の説明ですが、そもそもを結局突き詰めていった時にやはり財政問題ですというお話だったんですね。で、私も過去数年の茨城県の財政、収入支出っていうのは大ざっぱにその県が開示してる範囲のものを見ました。1兆2,000億近辺での一般会計の収入があつて、それに見合った支出で毎年若干はその剰余金が積み増しているという状況でした。実際には調べてみると、緑地公園っていうのは茨城県つくば市か忘れちゃったけどいっぱいある中で、どうしてこここのところだけを非常に問題視するのかというのがまずロジカルでないということがありましたし、本当に財政問題を問題にするのであれば、それこそ約240万人、茨城県の全住民ないしはその有権者がどう思ってるのか、茨城県大きいですけどその中のつくば市に所在している茨城県営公園の維持管理費がかかるという問題に対して、それこそ1兆3,000億と240万人の資源をどう配分するんですかっていうところがないままに、公務員の方々に失礼になりますけれども、要はわからないうちにちょっとやってやってしまえという無責任か、或いは、様々なフィフティスタディにしてもその環境アセスメントにしても、まともなことを何にもやらずにそれをやろうとした長大、それをやらせた県とやらせるということを許認可した県議会も通したという県の見識の低さというか、無能か無責任かしかないと私は感じました。その場でそういう発言をいたしました僭越ながら、そうじゃありませんかと。 先ほどアンケートの話も出てましたけどアンケートとか統計ってのは円の数とか、結局ジャッジの問題でいかようにでもなってしまう。さっき1,100とか何とかって話ありましたが、結局これも賛成ですか反対ですかって240万人の有権者のうちアンケートとって出てきたのが数万3,000、4,000しかありませんと、それはそうですよねと。多分市長もそうで私もですけど、一茨城県民として、つくば市民として、例えば茨	私も市役所の中で、いやそれはやめといってくださいとか言われることありますけど、どういことが今後動きとして出てくるかわかりませんが、私としてはやっぱりこうして多くの皆様が洞峰公園に対する思いを共有できているということは、県と話す上でも圧倒的に力強いバックアップなんです。実際、私もあの計画はないと思ってますけど、もし計画が多くの皆さんが喜ぶものだったら、そうなのかと、残念だけど仕方ないなと思ったんですけど、まだアンケート結果見てないですけど、アンケートも間違いなく反対が多いでしょう。説明会についてはあの通りでしたから、やっぱりそういう意味で私と皆さんの感覚はずれてないし、同じ思いを持っているというふうに思うと、やはりこちらも諦めずにアンケートを1回追加されるぐらい何ともないと、そんなものにへこたれずにやっていこうという思いで、今やっておりますので、必ずそこは次どういう展開になるかまだわかりませんが、皆さんのお声を力にして、県と別に喧嘩をするわけじゃなくて、協議を続けていきたいなと思ってますし、その展開の中でもっとつくば市としてここ頑張るところだなと思えばそういう判断をしっかりとしていきたいと思っています。力強いバックアップありがとうございます。引き続きぜひ声をどんどん上げていただければと思いますので、よろしくお願いします。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
城県と栃木県の県境に近い公園の例えば維持費の問題だということをそこまで強い関心を日常的に持っていて、何もない中でそれに対してイエスかノーかと言ってもそもそもノーオピニオンだし、という機会がなければ、そうに決まってるわけですね。なので、ただ結局それをもってして関心がないっていう人はノーでなかったということでイエスが多数派だったなんていうそれは子供だましの論理であって全く妥当性がないので、このままいくと一方的に乱暴なやり方で県が物事を進めていくのではないかという非常に強い危機感を覚えたものですから、何らかのアクションということで皆さん動いてらっしゃる方と、多少なりとも力を出してということで動きを私なりにとっております。 日夜、6項目の政策も含めて多岐にわたるつくば市の様々な課題に注力してらっしゃるし、不勉強でしたけど五十嵐市長の初めていろいろ具体的なお話を聞かせていただいて、やはり、適切な個々の諸問題に対する認識度合いだとか或いはその出てきたQに対するきちっとした対応とか、要はコミュニケーションスキルという面も含めて、ちゃんとやるっていうのは市長の場合は明らかに私今見えたんですごく安心しました。よく県としては上下がねとか何とかって一般的に言うけどやっぱりそうは言ってもなんて話もまことしやかにみんな言うじゃないですか。なんで私のお願いは、どんなことがあっても我々は市長を支持したいと思ってますので、要するに茨城県の動きに対して迎合することなく進めていただきたいということです。グランピングもバーベキューも、私民意がいいというなら仕方ないと思うんです私個人的には大反対ですが。当たり前だけど議論に議論を重ねてちゃんとその意見を闘わせて状況をお互い全員が認識した上で茨城県の財政問題含めてどうするかっていう議論もなされないままに、一方的にただちよろっとやって、もともとPFI法って20年以上前にできましたけどパークPFIこの数年前できて実績欲しいっていうのがもう見え見えで、それをちょっとやっちゃえばいいんだという精神構造が非常に腹が立つので、そういうことに決して屈服することなく頑張っていたきたいというのがお願いであります。	

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
9	最近ニュースで通園バスの中に子供が取り残されて亡くなる事件があったと思うんですが、つくば市としてどのような取り組みをされてるかっていうのが気になります。例えば、車内で人の動きを検知するセンサーの導入とかに補助金を出す予定等がありますか。 個人的には人の努力より、このサイエンスシティになったんだから、ぜひ何かIoTの力で解決できるといいかなと思っています。	私もあのニュース、本当に痛ましい思いで聞いていましたし、送迎バスでなくともつくば市でも数年前に、車内に子供を置き忘れてしまって亡くなってしまうという本当に痛ましい事件があって、あれから様々なことを考えているんですが、まず今回のバスについては国からも通知が来ましたので、とにかく改めて一斉点検という形で実施をしています。どういう形で、子供たちの置き忘れとかそのままだにしないかということ、各園で、民間も含めて、実地調査を緊急的に行っているところです。いろいろ各自自治体の事例を見てみると、本当になかなかいきなりセンサーとかの設置はお金がかかったりしますが、例えば、一番後ろの席にぬいぐるみを置いて、そのぬいぐるみを必ず最終確認者が回収することで最後の1席まで、漏らさないようにするなんていう事例もあったりするので、そういうふうな形でとにかくいきなりハイテクなものは無理でも、物理的に確認するということは徹底してもらおうと思っています。 併せて、これは最近知ったんですけども、つくば市内に本社とか研究拠点を置いてくれた会社等が、やはりそのセンサーについても結構研究開発を進めているようですので、私もタイミングを作って、どんなセンサーを今開発をしているのかと、おそらく数年間でもかなり進歩していると思いますので、ちょっとそこについては一度見に行って、例えば子供たちのバス等に設置し得るものなのかどうかといったようなことについては、確認を一度したいなと思っています。いずれにせよ決してこれはあってはならないことですので、園側でまず確認を徹底するという部分ですね。もし例えば本来来てるはずの子が来てなければそこは必ず確認をするという、それから、当然バスの中で物理的なチェックをするということ、或いは車で通園してるはずの子が来てなければそれは当然親御さんに連絡をするとかいう部分で、親御さんへの連絡というのは、実は保育所って結構無断で休むお子さんが多いですね。いつも無断で休むお子さんだとどうしても園側として、連絡をしてもかえって怒られたりするとかいうことがあり、また今日も休みだっけとわかるでしょうみたいと言われてちゃって電話しにくくなったりするようなんですけど、もうそれでも電話をするルールには数年前にしました。やっぱり、何があっても万が一子供にそういうことがあってはいけませんから、来てない子がいても連絡がなければ、必ず園側で保護者に連絡を入れるということを、例えば今回のケースもそういうことをしていれば、そもそもバスにいたんだってことはわかったと思いますけれども、そういうちょっとまずはアナログですけども、徹底をして連絡を取るということで、合わせてシステムのなところも勉強をしながら進めていきたいというふうに、その両輪で今考えているところです。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		IoTも視野に入れつつ、今まずできることをやっていきたいなというふうに思っていますので、おっしゃる通り、おそらく技術と予算があれば解決できるのかなとは思っていますので、ちょっとその市内の研究開発してる会社のシステムがどういうものがあるかなんていう相談は、早めに行いたいと思っています。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
10	①リモートワークの関係もあってもう少し自然豊かなところで住みたいということで、つくば市に移住して早6ヶ月なんですけれども、移住者に対しての支援制度については拡張のご予定があるかどうかということをお伺いしたいと思います。というのも移住してから特段そのあたりの支援というのをいろいろ調べたんですけど、対象になるものがございませんでした。年収の面ですとか、建てる家屋の制限ですとか、そのあたりが関係してるのかなと思うんですけど、五十嵐さんも最近コンポスト始めたっていうのも、会報で見たんですけども、その辺りの支援も実はなくてですね。自宅でも導入してるんですけども、その辺りの制度も特に対象にならなかったってこともありました。今後つくば市として、おそらくその働き盛りの30代40代50代の移住っていうのを、その辺りをお考えになっていくのかなと思うんですけども、そこについての優遇ですとか制度面、そのあたりをお伺いしたいと思います。	①つくば市では世帯100万円の支援金等とかご用意してましたが、その対象外ということですかね。確かにちょっと要件はいくつかありまして、すべての方が満たせるわけではないっていうのはちょっと申し訳ないんですが、実はおかげさまでつくば市去年は、全国の移住者というか、正確に言うところ社会増という言葉を使うんですが、つくば市から引っ越していってしまう人とつくば市に引っ越してきてくれる人の足し算の引き算の数字で、昨年日本で一般市の中で、政令市は除きますけどで一位になったんですね。つまり、一番選ばれたまちということで、政令市を入れても実は7位になりまして、かなり選んでいただいていると思って、それはまさにリモートワークが可能になって、それからコロナでいろいろ結構独自の取り組みを行ったりしたのが報道されることなども多くて、そういうこともあったのかなとか複合的な要因だと思っていますけれども、そういうふうには思っています。 一方で、ここから先はちょっと期待とする答えとは違う方向かもしれませんが、つくば市は数字としてはそうやって、移住者が非常に増えたんですが、例えば駅前とかに教育環境が良いから来てくださいますとか、子育て環境すてきだから移住しませんかみたいな、プロモーションはもう数年前に禁止したんですね。やるんですよ当然子育て支援もやるし学校もしっかり頑張るんですけども、でもやっぱりこんな環境が良いから来てくださるっていうのは、結局子育てサービスなり教育サービスの消費者を増やすだけだろうなと思ってますね。そうではなくて、もうこれから消費者、行政サービスをただ消費する、良いからっていうことで商品のように選ぶような人たちに来てもらうっていうのではなくて、自分たちでこんなことをしてみたいと、例えば手づくりで何かを作っちゃってちょっとでも売ってみるとか、お店を少し飲食でもいいしやってみるとかですね、或いは周辺市街地に実際住んでそこの地域と繋がって新しい商品を作ってみると、そういうことをつくば市で勝手にクラフトライフと名前をつけてやってるんですけど、何かこう便利だから移住しようとかっていうのではなくて、自分でここで何かを作りたいなと思う皆さんに向けた移住のプロモーションにもう切り替えようということで数年前からやっているんですね。ですので、支援金がお出しできなかったのは非常に申し訳ないんですが、今後、支援金とかも増やしていく方向性としては、やっぱり自分で何かを作っていくようなことをとりわけ周辺市街地に住んで暮らしてなんているということに関心を持ってる皆さんに対して、どんな制度があるかなということは、今思っているところではありますので、ぜひもしこれからお友達なども、つくばいいところだよっていうふうにお声掛けいただける時が来れば、そういうような外に流していくような制度を作っていきたい。それは単純にお金だけではなくて行政としての生活のサ

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	②わかりましたありがとうございます。支援金が欲しかったとかそういう話ではないので、そこだけご理解いただいて。どちらかというとやっぱり働き方に合わせた制度っていうのを検討いただきたいなと思ってました。制度を調べていく中で、つくば市で働かないと支援金としてもらえないとか、ただちょっと今の時代の流れと少し逆行してる部分もあるかなと思っていて、いろんな人たちが中心部から外に出てる理由ってリモートワークっていうその働き方の垣根がちょっと低減化されてるといふか、そのボーダレスな状態になってきてる中で、その土地で働かないとなぜその支援が受けられないんだっけっていうちょっと疑問があったりもしたので、ぜひ今後考えていただきたいと思います。	ポートなのかなと思ってまして、私はヒトモノカネを中心部に引き寄せる求心力を働かせるんじゃなくて、ヒトモノカネを中心から外に遠心力を働かせるようなまちづくりをしたいということを常々思っていますので、本当に周辺地区には様々な魅力がありますので、そういったことに繋がるような形での制度づくりなども、ちょっとこれから頑張っていきたいと思います。ぜひ、こんなのあったらいいよというのも逆にご提案いただければいいなと思います。 ②ありがとうございます。細かいところまで今、要綱が頭に入っていないので、ちょっと改めて見直してみても、まさにポストコビッドの世界でのふさわしい補助金の形をちょっと見てみたいと思います。
11	私は今つくば市にある高校に通ってて、そこでつくば市在住の中国人の方と知り合いまして、いろいろと話してるうちに出入国管理局の茨城で手続きが水戸でしかできないっていうのが大変ってお話をお聞きしたんですね。その出張所をつくば市に誘致することはできないかって、そしたら便利だなっていう話なんですね。私も高校に行くようになって、つくば市って本当に様々な国の方、外国の方がたくさんいるんだなっていうことを知ったので、確かにその手続きがつくば市でできたら、大学とかで来られる外国の方がとてもっと便利につくばに住むことができるんじゃないかなと、そういったお話って出ていたりするのかなと思いました。	その通りなんですよ。出入国管理局つくばに当然あっていいと思っていて、実はこれまで何度も要望をしてるんですね。つくばに作ってくれと。やっぱり外国人の多さとか割合でいったら、つくばに当然作って欲しいという思いがあって、でも今まで何故かずっと断られてきてですね。つくれないのはつくれないでしょうがないけど、実は最近というか今日から、松戸に急にできたんですね。千葉県松戸に。茨城県の人もしそこに行けばいいみたいな話らしいんですけど。松戸に作るならつくばに作って欲しかったなっていうのが正直あるんですが、ちょっと状況としてはそういうところでして、常磐線沿線の方にとっては多少便利になったかもしれませんが、まだまだ必ずしも県南の人にとって便利とは言えないと思いますので、ちょっと引き続きこれは働きかけを諦めないでやっていきたいと思います。ぜひそういう声を、若い人たちからも上げてもらいたいなと思います。よろしくお願いします。こういうこと考えてくれてうれしいです。

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
12	ごみの問題についてお伺いします。ごみを削減ということで、私もいろいろ個人的には努力してるんですが、これ最終的に埋め立てるようなごみっていうのはなくなるという見通しがあるんでしょうか。当面は市外或いは県外に持ち出して問題ないみたいなんですけど、やっぱり持続可能性というようなことを考えると、基本的には個人がちゃんと処分するというのが原理原則だと思うんですが、なかなか住まいの状況なんかから、自分の家の庭に埋めるってわけにはいきませんので、やはり少なくとも市の単位で、市内で出たごみはちゃんと市内で処理をします。それがやっぱり、持続可能なりSDGsの基本だと思うんですが。その辺ぜひ、これは市民の意識っていうのはかなり大きいと思うんですが、ぜひ市民の意識を変えるような方向で、ご努力をいただければと思います。	おっしゃる通りでして、今は最終処分場がつくば市にないのでよそに持ってってありますけど、これ本来はそもそも望ましいことじゃないんですね。やっぱり自分のまちで出たごみは、自分のまちで処分できないといけないよねというのが基本的な共通ルールだと思ってます。ただ、そうは言ってもいろいろな事情で最終処分場をつくれないうえに、本当に申し訳ないけどよそに持ってっていくというような状況なんだと思います。その意味でも、当然今までこの議論はなかなかできてこなかったんですけど、やっぱり調査からきちんと始めていかないと作るまでに簡単に20年ぐらいかかっちゃいますので、そういうこともやっぱり向き合わなくてはいけません。で、ごみはなくなるのかという部分について言えば、実はつくば市の未来構想の中には、これ若手のいろいろ職員達がディスカッションをして、将来的にはごみという言葉がなくなっているまちを目指そうということを掲げたんですね、なかなか踏み込みましたけれども。でも、絶対に無理かと言われると必ずしもそうでもないかもしれないですね。私も6人家族ですけども子供4人いて、段ボールコンポストを始めて生ごみを堆肥化を始めたら、そしてプラスチックのごみはもちろん分けますし雑紙も分けたら、今まで週2回出していた燃やせるごみが1回で済むようになってるんですよ。だから、個人の努力でかなり減らせるところはあって、さらに技術的なことも含めて、例えばリサイクルが落ち葉などもできるようになっていくとか、或いは今工業製品のプラスチックいわゆる製品プラスチックの回収というのはどこでも行われてないんですが、これもルールが変わってだんだんできるようになってきましたので、そういうことも行ったりしていけば、かなり高い割合でのリサイクルにつなげていくことができるんじゃないかなと思っています。それは当然コストがかかることですので、ご自宅で分けてもらうものもコストですし、行政としての処理コストも含めて税金ですけども、ただやっぱりそれをかけなくちゃいけないよねということなんだと思うんですね。今までは例えば、つくば市で新しい公共施設作るときも、環境負荷を下げるために新しい設備をつけるというのは、予算がないからといってつけてこなかった。でもそれは結局外部に環境負荷をかける選択をしてきたわけですね、でももうそれやめようということを庁内で、今は例えば新しい建物をつくるときも環境性能にかなりのお金をかけるように、それは今まで垂れ流しにしてたものもちゃんと責任を持つという。それと同じように当然環境を守るためにはコストもかかるんですけども、それぞれがそのコストとそれによる価値を認識できるようにしていったら、当然市民の皆さんにもこういうことをすることで、ちょっとひと手間だけど地球を守ることに繋がりますよねというメッセージを、広報等でもわかりやすく伝える必要あると思ってま

タウンミーティング(2022.10.1 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		すし、実はさっき申し上げたかわら版というので、毎回反響あるんですが、一番私のところに反響多かったのは、ごみの問題を書いたときなんです。ね。ですので、やっぱり多分そこが一番反響あるっていうのは、つくば市民すごいなというか、いつも感心しちゃうんですけど、これだけごみのことにみんな関心持ってくれてるんだと、そういう意味でも広報の努力をしっかりとしながら、行政としてもできることをやり、市民の皆さんにもそういう意識をより持っていただけるような努力を両方していきたいと思います。